

ーグローバル教育のイノベーションに向けてー

# Collaborative Online International Learning (COIL) 導入ガイド

## 琉球大学 グローバル教育支援機構

〒902-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL: 098-895-8092

Email: r-sekaten@acs.u-ryukyu.ac.jp

HP: <http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/>

Facebook: Ryudai\_coil

Instagram: ryudai\_coil

HP



RYUDOAL.COIL



## 世界展開力強化事業とは

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において2011(平成23)年度から開始された事業です(日本学術振興会 <https://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/>)。これまで、アジア、米国、ロシア、インド、中南米、トルコ、EUが対象地域となり、グローバル人材の育成を支える日本の高等教育の国際化の支援を行なっています。

## 琉球大学採択事業

「COIL型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」とは、2018年度世界展開力事業「COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成」として採択された琉球大学のグローバル人材育成事業です。琉球大学の深い交流を持つハワイ大学、ハワイ大学システムカレッジ、グアム大学、パラオ地域短期大学、ミクロネシア連邦短期大学及びマーシャル諸島短期大学とのCOIL(Collaborative Online International Learning)を基盤とした教育連携により、太平洋島嶼地域のSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に貢献するリーダーを育成します。グローバル津梁プログラムをコアとし、全学の皆さんがそれぞれの専門性を活かしながら参加することのできる教育プログラムとなっています。

## COILとは

Collaborative Online International Learningのことを指します。海外の連携大学と交流を行い、問題を共有し、協働でその解決に取り組むオンライン学習のことです。大きく分けて、リアルタイムで交流を行うシンクロ型(同期型)、動画、ファイル、メッセージ等をアップロードして情報共有、意見交換を行うアシンクロ型(非同期型)、その両方を使用するハイブリッド型の三種類があります。学習の目的に応じて使い分け、海外との協働学習を実施します。特に今回の琉球大学の事業においては、連携大学が太平洋島嶼地域にあり、ハワイとの5時間(19時間)の時差が最大で、他の地域と比較してシンクロ型が活用しやすいというメリットがあります。

## COIL導入の流れ

COILを実施するためには、まずパートナーとなる海外大学教員を探します。パートナー教員と授業スタイルや時差を考慮し、リアルタイムの交流が良いのか、それぞれの時間に自由に取り組める交流が適しているのか、COIL形式を選択します。COIL形式を選択したら、お互いに使いやすいテクノロジーを使い、交流授業を始めます。



## COIL導入のメリット

COIL型授業を導入することで、学生の学習意欲の向上や質の高い授業の提供に繋がります。

- ・学生の課題解決スキルやコミュニケーションスキルを養うことができる
- ・学生のモチベーションが向上する
- ・学生の国際共修や多文化交流環境を提供できる
- ・インターナショナルな協働学習であることを活かし、グローバルな課題に取り組むなど、有意義な課題設定ができる
- ・自身のICTスキルが向上する
- ・新しいネットワークの構築に繋がる
- ・新しい授業スタイルにチャレンジできる
- ・交流相手からフィードバックが得られる
- ・Society 5.0(※)における高度情報共有・処理型社会へのいち早い対応が可能となる
- ・グローバルに協働することでクリティカルシンキング、クリエイティブシンキング、システムシンキング等、能動的開発学習が実践できる

※日本政府が第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱した概念。サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を指す。



パートナー  
探し

COILを導入するにあたり  
まずはパートナーを探しましょう

### 1. これまでのつながりから

これまで研究等をとおして交流のある教員と協働授業を行います。

### 2. 新たにパートナーを探す

研究内容、興味関心分野、授業の目標等に合わせ、以下の連携大学から探して実施します。パートナー探しのサポートは、世界展開力強化事業HPからご相談ください。

<http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/contact/>



ハワイ大学(マノア校、ヒロ校、マウイカレッジ、カウアイCC、ハワイCC、ホノルルCC、カピオラニCC、リーワードCC、ウィンドワードCC)、  
 Guam大学、パラオ地域短期大学、ミクロネシア連邦短期大学、マーシャル諸島短期大学



## COIL形式 の選択

COILをどのように授業へ組み込むかを検討します

### 1. シンクロ型

連携大学とテレビ電話システム等を使い、リアルタイムで交流授業を行う方法です。

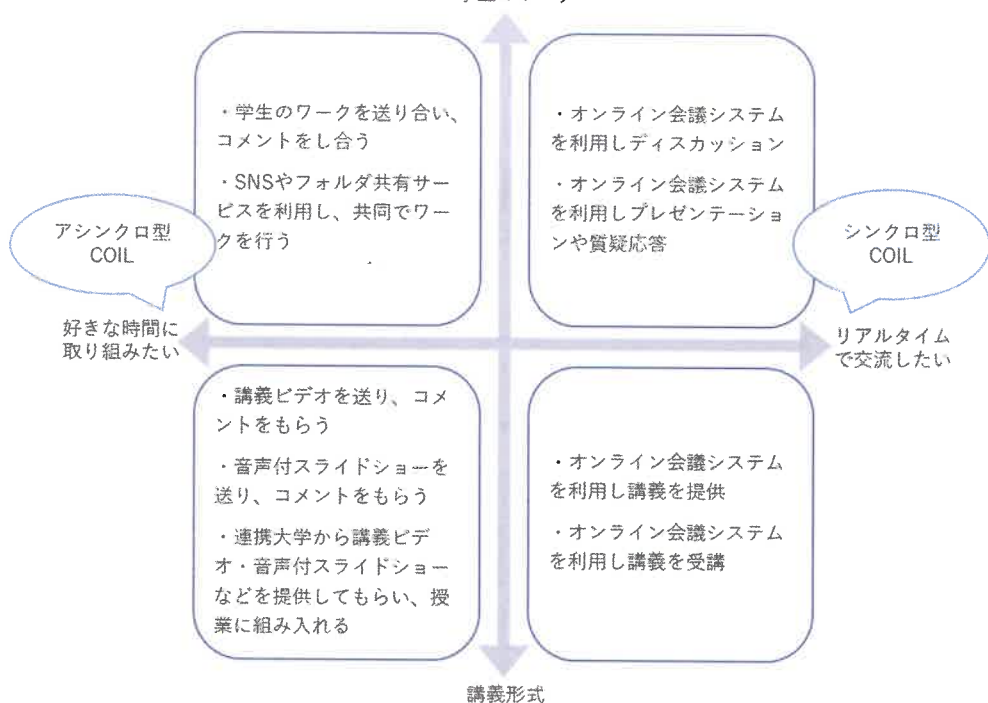
### 2. アシンクロ型

講義動画や学生作成のプレゼンテーション動画をシェアして、お互いにコメントをし合ったり、琉大学生と連携大学学生でグループを作りファイル共有をしながら同じ課題に取り組んだり、それぞれ好きな時間に交流する方法です。

### 3. ハイブリッド型

シンクロ型とアシンクロ型を組み合わせた協働授業です。

学生のワーク



## 実施例

### シンクロ



琉球大学と連携大学の学生がペアとなり、リアルタイムに交流することで、お互いに言語学習をサポートする。



連携大学へ海外研修に行く前に、オンラインで交流授業を行う。研修後に、成果発表会をオンラインで連携大学に繋ぐ。

### ハイブリッド



講義をオンラインで連携大学と繋ぐ。学生からのコメントは、後からクラウドにアップロードしてもらう。



講義スライドに音声や字幕をつけ、琉球大学及び連携大学の学生に見てもらい、学生同士のディスカッションをオンライン会議システムを用いて行う。

### アシンクロ



連携大学から講義動画等を送ってもらい、授業の一部として取り入れる。連携大学の学生からプレゼンテーション等を送ってもらい、コメントを送るなど交流を行う。



琉球大学と連携大学の学生がペアとなり、ビデオレターの交換を行い、互いに言語学習をサポートする。



琉大学生と連携大学の学生でグループを作り、ファイルの共有サービスやSNSを使い、ひとつの課題と一緒に取り組んでもらう。

ニューズレター「Ryudai COIL Post」にて、実施されたCOIL授業を紹介しております。

<http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/news/>



## 各連携大学との時差



※ハワイとの時差は-19時間ですので、実質的には5時間の時差となります。

## 学年暦

琉球大学と連携大学の学年暦から、COIL実施に適した時期が選べます。詳しい学年暦は、それぞれの大学HPで確認するか、グローバル教育支援機構開発室にお問い合わせください。

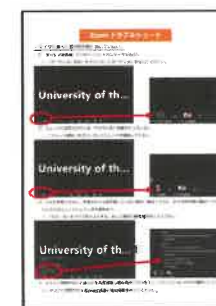
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
琉球大学	前期					後期						
ハワイ大学システム	春学期	夏学期1	夏学期2	秋学期					春学期			
グアム短期大学	春学期	夏学期1	2	3	秋学期1				秋学期	春学期		
パラオ・ミクロネシア連邦・マーシャル諸島	春学期	夏学期		秋学期					春学期			

## テクノロジーの活用

COILのスタイルが決定したら、テクノロジーを活用して授業を実施しましょう

### 1. シンクロ型COIL(リアルタイム交流)におすすめのオンライン会議システム

**zoom** Zoomアカウントを作成しミーティングを設定後、ミーティングIDを参加者に通知することで、オンライン会議を開催できます。画像共有機能を使えば、簡単にパワーポイントスライド等も共有できます。



Zoomの簡単動画やトラブルシューティング・マニュアルは、世界展開力強化事業HPにてご覧いただけます。

<http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/coil-type-education/>



### 2. アシンクロ型COIL(ファイル共有等)におすすめのオンラインサービス

Google Drive、OneDrive、Dropbox等が便利です。



### 3. チーム型COIL(フルタイム交流)におすすめのオンライン会議システム



Microsoft Teamsはチャット、テレビ会議、通話及びコラボレーションが1つにまとまっているので、ツールを使い分ける必要はありません。ダウンロードしチームを作成、加入することですぐに活用できます。



#### Microsoft Teams 簡単動画・解説

(琉球大学教務情報HP遠隔授業に関するまとめページ)

[http://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page\\_id=10279](http://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page_id=10279)



#### Microsoft Teams 学生目線の使い方ガイド

(作成・提供:工学部 工学科知能情報コース 赤嶺有平准教授、理工学研究科 情報工学専攻 講義「UI/UX」より)

[http://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page\\_id=10752](http://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page_id=10752)



### コンテンツ ポリシー

授業で使用する資料や連携大学と共有する資料のコンテンツについて

教材等のコンテンツに対する考え方を示した、コンテンツ・ポリシーをHPIにて公開しています。教材作成や講義動画等の作成時にご参照ください。

基本的には、著作権法等に違反しない形での交流が前提となりますが、トラブルを避けるために

- ・個人情報や、第三者の知的財産権を侵害するコンテンツは使用しない
- ・人物が写っているコンテンツを使用する場合は、被写体の許諾を得る
- ・コンテンツに研究成果等が含まれる場合は、授業関係者に守秘義務誓約書(琉球大学様式)の提出を求める

といったポリシーに沿ってCOIL授業を導入することをお勧めいたします。

### プライバシー ポリシー

オンラインで授業をする際の学生のプライバシー保護について

COIL授業に参加する学生のプライバシー保護に対する考え方をまとめたプライバシー・ポリシーをHPIにて公開しています。参加学生からどのような個人情報を収集し、どのように利用及び保管する方針であるかが示されています。COIL授業導入前に参加する学生に対して、本プライバシー・ポリシーのもと授業運営を行う旨をご説明ください。シラバス等に本プライバシー・ポリシーへのリンクを貼るといった情報提供もお勧めです。

コンテンツ・ポリシー及びプライバシー・ポリシーはHPIにてご覧ください。

<http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/coil-type-education/>



・実際にCOIL授業をしている教員から話を聞いてみたい。  
⇒世界展開力強化事業HPからお問い合わせいただけましたら、既にCOIL授業を導入している教員をご紹介します。また、ニュースレター「Ryudai COIL Post」にて、実施されているCOIL授業を紹介しておりますので、そちらもご覧ください。

・英語でのオンライン授業は学生にとってハードルが高いのでは？  
⇒好きな時間に課題に取り組めるように、SNSやファイル共有サービスを利用しての共同ワークを実施したり、連携大学が提供する短い講義ビデオを授業に取り入れ、教員が解説をするなど、様々な取り組みがあります。

・連携大学以外とのオンライン交流も支援しているの？  
⇒連携大学以外との交流も支援しています。Zoom接続支援や機材貸し出し等、お気軽にお問い合わせください。

・一度も会ったことの無い教員に、COIL授業をお願いするのは難しいのでは？  
⇒連携大学の教員で、COIL授業を導入することで自身の指導能力の向上や学生の学習効果のアップを望んでいる方の中から、専門分野や授業の内容が一致する方を中心にご紹介いたします。COIL授業前後の連絡調整もサポートいたします。

・Zoom以外のオンライン会議システムも利用して良いの？  
⇒使い慣れているサービスを利用してください。Zoom以外のシステムを利用する際にもビデオカメラやスピーカー等、機材の貸し出しが可能ですので、お問い合わせください。

## 関連ウェブサイト

琉球大学 世界展開力強化事業HP

<http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/>



世界展開力強化事業 日本学術振興会HP

<https://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/>



## 参考文献

COIL授業に興味・関心をもたれた方は、下記もご覧ください。

福地恭子. 2013.「スペイン語初級クラスにおける往復ビデオレターの実績」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』 第17巻1号 87 - 125

[https://okiu1972.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=847&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://okiu1972.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=847&item_no=1&page_id=13&block_id=21)



與儀峰奈子. 2020.「シンクロ型遠隔交流を活用した英語教育・国際理解教育」『欧米文化論集 Ryudai Review of Euro-American Studies』 第64号 pp.15-36

<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/11647/1/N074p069.pdf>



George Robert MacLean and Shiori Yamauchi. 2020. “The Mystery Guest: A Collaborative Online International Learning Case Study” 『欧米文化論集 Ryudai Review of Euro-American Studies』 第64号 pp.85-101

<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/45528/1/N064p085.pdf>



---

ーグローバル教育のイノベーションに向けてー

Collaborative Online International Learning 導入ガイド

2020年9月発行

琉球大学 グローバル教育支援機構